

風土記の丘の花だより¹⁵³

今、そしてこれから見られる植物(2022年9月24日)

台風の影響はありましたか？幸い和歌山はそれほど被害はなかったようです。園内でも大きな木が倒れる事はありませんでしたが、柳川家の南のゲッケイジュが根元から倒れてしまいました。秋の七草の一つフジバカマがよく咲いて来ました。



これがフジバカマです。あちこちの山裾などに咲いているヒヨドリバナとそっくりですね。一番簡単な見分け方は、葉を見ることです。フジバカマの葉の多くは3つに分かれています。ヒヨドリバナは1枚です。ただ、ヒヨドリバナにはいくつかの種類があって、フジバカマとの区別がややこしいものもあります。



余り聞き慣れない地味な花ですが、名前はアメリカキンゴジカといいます。アメリカとつくくらいですから、外来植物です。では、キンゴジカとは？金色（黄色）のゴジカです。ではゴジカって、なんでしょう。漢字で書くと「午時花」です。昼から咲いて、夕方にはしぼむのでこんな名前です。修復古墳の西斜面に群生しています。



ピンク色のヒョロヒョロした花が咲いています。ツルボです。これも修復古墳の西斜面、梅園のところで撮ったものです。ここの他にもいろいろなところで咲いています。以前はユリ科に分類されていましたが、今ではキジカクシ科ということになっています。漢字書くと「蔓穂」、花の付き方からこの名前が付いたのでしょう。秋の野を彩る風情のある花ですね。



綿毛が目立つ大型の草です。ダンドボロギクといいます。キクの仲間は、花びらのある花と無い花が咲きますが、これは花びらの無い花で、花がパッと開かずに、綿毛ができます。ダンドとは「暖土」という漢字を思い浮かべがちですが、これが発見された地名だそうです。

松下